

港湾・空港

世界につながる物流拠点、ひと・ものが集う「みなと」。暮らしを支え、地域産業の国際競争力を強化するため、港湾・空港施設の整備を行うとともに、賑わいのある空間づくりを進めています。



平成26年度入省

高知港湾・空港整備事務所 保全課 保全係長 石井 達也

私の役割

高知県における人命を守る海上施設の「防波堤」や陸上施設の「堤防」を工事業者の方と協力しながら一日も早い完成を目指して工事を行っています。

力になれる感覚

より安全性の高い地域を目指し、その土地環境を変えるような大きな事業に「自分が携わって力になれる」という感覚は他では味わうことのできないやりがいだと感じています。

自分から!

事業を進めていくうえで、楽しく仕事ができる環境づくりを普段から大切にしています。楽しい環境は待っていてもできないので自分から作る意識をしています。なんでも楽しくなければ続きません!

フェリーターミナル整備

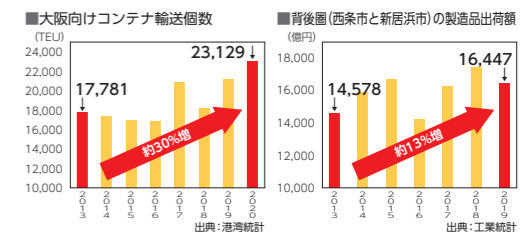
船舶の大型化に対応した、より効率的な物流の構築、大規模災害時に備えた耐震強化岸壁の整備を推進しています。



複合一貫輸送ターミナル整備事業 (東予港中央地区)

整備に伴う効果

周辺企業の設備投資【2014~2025年】
民間投資額: 約1,056億円 新規投資: 約30人



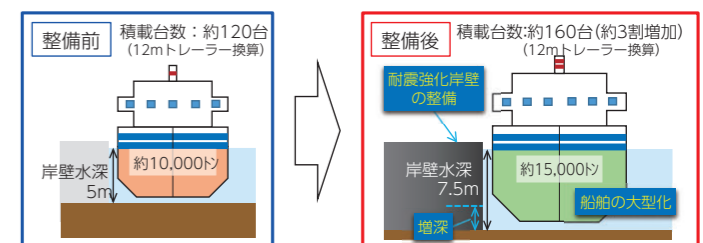
関係者の声

運送事業者A: 港湾整備によってフェリーが大型化したので、利便性が向上し、フェリーを利用する頻度が増加した。

運送事業者B: 運航フェリーが大型化した事で、輸送出来るトラックの台数が増え、輸送コストが大きく減少した。

東予港フェリーターミナルの整備

東予港のフェリー航路は平日便を中心に満載に近い状態で、積み残しが発生するなど、非効率的な輸送を強いられていました。新たにターミナルを整備することで、船舶の大型化に対応でき、トラック等の積載台数が増加するなど、物流の効率化に繋がります。



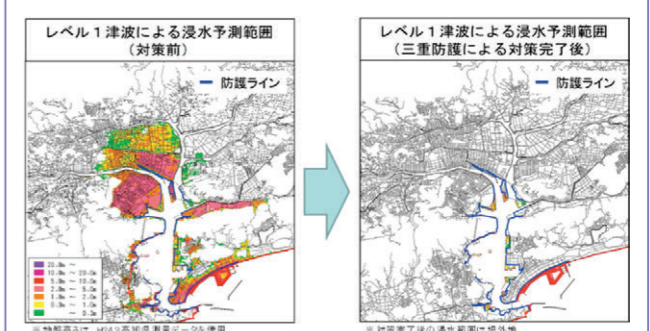
高知港海岸直轄海岸保全施設整備

今後30年で70~80%の確率で発生が予想されている南海トラフを震源とする地震及び津波に対して、市街地等を浸水被害から防護し、生命・財産を守る目的で、海岸保全施設(堤防など)の耐震対策や高上げを実施しています。



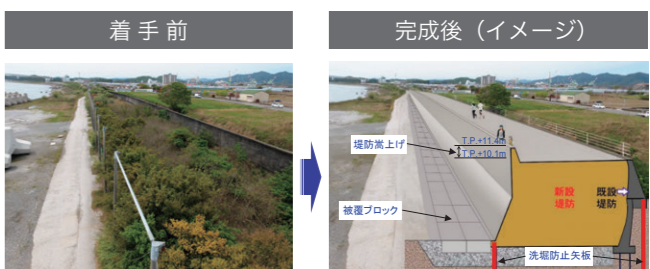
高知港海岸における三重防護(第1~第3ライン)のイメージ

三重防護の整備に伴う効果



浸水面積: 1,445ha → 0ha 浸水被害軽減額: 1兆9,875億円

※浸水面積及び浸水被害額は堤外地を除いた値。(浸水被害額は地震発生確率を乗じる前の値) 河川からの流入はないものとして試算。



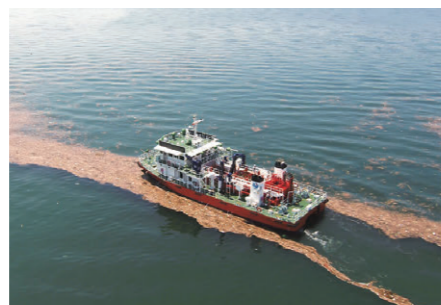
第2ラインの堤防改良イメージ

地震・津波対策



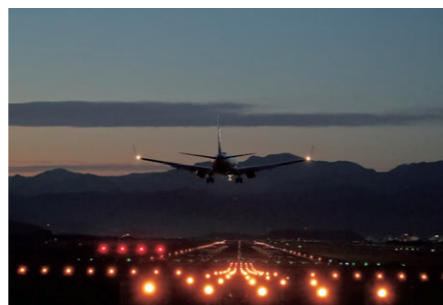
巨大地震にともなう津波から背後の人命・財産を守るため、防波堤の整備や護岸、堤防等の改良を実施します。

海洋環境整備



安全で美しい海を守るため、浮遊ゴミや船舶からの流出油の回収を実施します。また、津波等による漂流物の回収も実施します。

空港整備



航空機の安全運航のため、滑走路や誘導路、エプロン(駐機場)などの施設整備や、更新・改良を効果的・効率的に実施します。

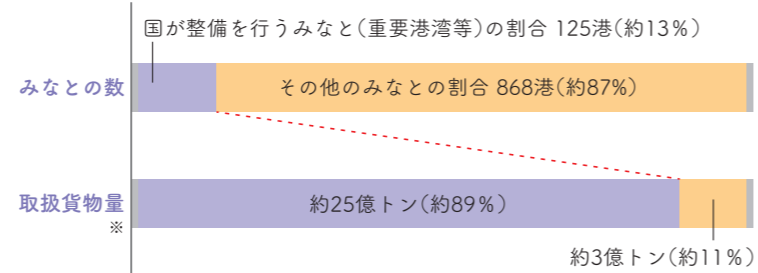
賑わい創出



大型岸壁の整備推進により、ものだけでなく、ひとが集まり、地域経済の活性化にも寄与する、賑わいを創出します。

国が整備するみなとが担う役割

暮らしを支える海上輸送貨物は、ほとんど重要港湾等で取扱っている!!



※: 港湾統計(年報)(2018年)を基に作成